

特集

島に渡った 動物とヒト

～琉球列島における
動物の渡来を考える～

Focus

植物を材料にして新しいプラスチックをつくる!

標本の世界

科学・技術史分野の資料としてのあかり

科学冒険隊

昆虫標本を作ろう!

真実を見抜く技術!

靴に付着した砂や泥が暴く真実

「milsil(ミルシル)」について
「milsil(ミルシル)」の「mil(ミル)」は「見てみる」「聞いてみる」「やってみる」の「ミル」。そのような「ミル」から、新たな、そして豊かな「sil(シル=知る)」が得られるでしょう。この雑誌とともに、皆様楽しい「ミルシル」体験をされることを願っています。

C O N T E N T S

- 3 **【特集】島に渡った動物とヒト**
～琉球列島における動物の渡来を考える～
[全体監修] 藤田 祐樹 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ研究主幹)
- 4 **動物にとって島とは何か?**
藤田 祐樹 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ研究主幹)
- 6 **琉球列島への陸生爬虫類の侵入**
—ヘビやトカゲはどのように海を越えたか?—
戸田 守 (琉球大学熱帯生物圏研究センター准教授)
- 9 **鳥なら島を“ひとつ飛び”か?**
山崎 剛史 (公益財団法人山階鳥類研究所自然誌研究室室長)
- 12 **島に適応した動物**
—リュウキュウジカの生態と絶滅要因を探る—
久保 麦野 (東京大学大学院新領域創成科学研究科助教)
- 15 **3万年以上前に琉球の海を越え、島へ渡った祖先たち**
海部 陽介 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長 / 「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」代表)
- 18 **Focus 科学者の探究心にせまる**
植物を材料にして新しいプラスチックをつくる!
これからのプラスチックのあり方を考える
橘 熊野 (群馬大学大学院理工学府分子科学部門准教授)
- 22 **標本の世界**
科学・技術史分野の資料としてのあかり
前島 正裕 (国立科学博物館理工学研究部科学技術史グループ長)
- 24 **親子で遊ぼう! 科学冒険隊**
#68 昆虫標本を作ろう!
野村 周平 (国立科学博物館動物研究部陸生無脊椎動物研究グループ長) 監修
- 28 **真実を見抜く技術! 第2回**
靴に付着した砂や泥が暴く真実
横山 一己 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館長) 取材協力
- 33 **NEWS & TOPICS**
世界の科学ニュース & おもしろニュース
- 34 **milsil カフェ / 次号予告 / 定期購読のお知らせ / 編集後記**



沖縄の島々と海は、動物たちにとってどんな意味をもつのでしょうか? 写真は沖縄県慶良間諸島

写真提供: 久保麦野



表紙写真

沖縄の島々へ、3万年以上前にたどり着いた祖先たち。彼らはどうやって困難な航海を成功させたのでしょうか? 国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」では、その謎を探るため、本年6～7月に、丸木舟で台湾から与那国島をめざす実験航海を計画しています。

写真提供: 海部陽介

特集 島に渡った動物とヒト

～琉球列島における動物の渡来を考える～

[全体監修] 藤田 祐樹 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ研究主幹)



写真提供: 小嶺公志、渡嘉敷村商工観光課

命の危険を顧みず海を渡るのはなぜ?

サンゴ礁の美しい海に囲まれた沖縄・慶良間諸島。ケラマジカは、その名のとおり慶良間諸島の島々だけに生息するシカで、現在およそ百数十頭が確認されています。このケラマジカが海に入り、島から島へ泳いで渡る姿が、島の人たちによって何度も目撃されています。流れの速い海域もあるため、途中でおぼれるシカも珍しくないといえます。なぜケラマジカは命の危険を顧みず海を渡るのでしょうか。“海渡り”をするシカは雄が多く、繁殖シーズンの秋によく見られることから、群れを離れた雄ジカが雌を求めて海を渡るのではないかと考えられています。“海渡り”は、小さな島々で生きるシカたちにとって、自らの生きる場所を探す、命を懸けた大冒険なのかもしれません。